

## 【中区】令和2年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年9月4日 午後3時00分 ～ 午後4時07分
場 所	中区役所7階 703会議室・704会議室
出席者	<p>【座 長】福島直子議員</p> <p>【議員：2名】松本研議員、伊波俊之助議員</p> <p>【中区：25名】直井ユカリ区長、吉田美幸副区長、 秋元政博福祉保健センター長、関野昌三福祉保健センター担当部長、 味上篤中消防署長、中山昭中土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年度中区個性ある区づくり推進費決算状況について</li> <li>2 令和元年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業実績について</li> <li>3 令和2年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行状況について</li> <li>4 令和3年度中区個性ある区づくり推進費予算編成の考え方について</li> <li>5 その他</li> </ol>
発言の 要 旨	<p>議題1～4について</p> <p>伊波議員：決算で、今日配付いただいた地域防災拠点支援ガイドの作成に、なぜ港中学校の子どもたちが関わったのか経緯をお願いします。例えば仲尾台とか（他校の関わりは）。</p> <p>直井区長：港中学校の方からアイデアを頂いてそれで始めたということからです。その後、ガイドは、全中学校に配布いたしまして、全中学校にも出前教室ということでお伺いしています。これを配布しただけではなく、拠点の訓練にも中学生の子どもたちにも参加していただいたということです。</p> <p>伊波議員：拠点の訓練には中学校、みんな参加していますか。</p> <p>直井区長：去年は拠点の訓練にお声がけして、参加をしています。</p> <p>伊波議員：港中学校も参加していますか。</p> <p>直井区長：生徒の一部が参加しています。</p> <p>伊波議員：すごくいい取組だと思っているのですが、こういうのは子どもたちに配られるだけじゃなくて、机上での授業の一環として何か取組をされているのでしょうか。</p>

直井区長：配るだけだとなかなか、読んでもらえなかったりしますので、これを配布するとともに、区役所から出前防災教室を行って授業をするとともに訓練にも参加していただいています。

伊波議員：例えば仲尾台中学、立野小があるのですが、あそこは立地的に上下にあって、立野小学校の拠点訓練に必ず出席されていると、校長先生の強いリーダーシップもあるのだなと感じているところですが、いろいろ聞いてみると、いざ発災時というのは、昼間の時間帯だと、どうしても現役世代は仕事を中心なので家を離れている、自営の方ばかりじゃないので、そういう時に家族のこととか心配な時に、どうしても中区は高齢者が多いのかなと。戦力になるのは中学生、皆さんももちろんいますけど。ぜひ普段から例えば教育委員会の管轄になるのかもしれませんが、できるだけ防災セミナーに行ってもらうとか何か続けていただきたいと思っている。実際戦力になるのは中学生なので、せっかく作ったものは有効に使っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

直井区長：今年も（地域防災拠点支援ガイドを）作成しまして配布するのですが、今年はどうしてもコロナの関係で学校の授業も非常に厳しいということもございます。今年はお出前教室も全て行けるかどうか、それは学校と相談なのですが、拠点の訓練の方もかなり規模を縮小する形ですので、今年はお学生の参加は難しいかなと思っております。

伊波議員：今学校のお話があったのですが、コロナ禍の中で、例えば対策なんかも、校長先生が最終的に判断されて対応されている状況でして、教育委員会はこうなさい、ああなさいと言うけど、校長先生が最終的にはご自身の判断で決めていると。できればこういう災害も含めて、小学校なんかも区の校長会があると思うので、区役所もそういう時にお顔出しいただいて、現場の困っていること、フォローアップをしていただくよう要望します。

直井区長：教育委員会や健康福祉局も今コロナ禍で忙殺されているということもございまして、先生がおっしゃるように学校任せなところがあるようだと伺っております。そういうこともございますので、私も学校支援連携の担当がアレンジして保健所を担当しております福祉保健課が校長会で、いろいろコロナのことについてご説明させていただいたことがございます。校長先生からは感謝の言葉を頂いたのですが、まだまだコロナも続いていますので、校長先生の方からいろいろ悩みなどを

伺って、可能な限り相談に乗ったり対応させていただきたいと思いません。

伊波議員：3ページの決算の（1）カ、4警察、過去にも触れさせていただきましたけれども、松本先生も福島先生も触れていただいているかと思えますけれども、この会議に警察関係の方は出席をしていらっしゃる。要は中区は警察署が4つある、本部入れれば5つ、他の区は1つですよね。警察署が神奈川県下に今、55ありますけど、横浜は政令市でありますので18プラス中区、市内でも4か所あるのは中区だけ。中区というところはお客さんもたくさんいらっしゃる、住んでいる方もいる、そういうことで警察行政のことが結構ある、いろいろ地域の。こういう話をしている場にご発言がなくても、持ち回りでもいいと思うんですけど、警察関係の方がご出席されていることが後々プラスになっていくんじゃないかと。慣例で18区、こういう会議の場には警察関係と呼ばないということになっているようであれば、中区がモデル的にやる、その言い訳的なところが、4つあるんですと言えるので、ぜひご検討いただければなど、より実りのある議論が展開できるのだと。よろしくお願ひします。

直井区長：きちんと位置付けられている会議ですので、レギュラーとして参加というのは難しいのかなと思うのですが、参考人招致みたいな形ができるのかどうか、議会局とも確認して相談させていただきます。

伊波議員：よろしくお願ひします。12ページですね、地域連携のところ、今日も実は2時半から中区のコミュニティFM、マリンFMと災害協定を結んでいる中区と割込みの通信の試験がようやく実証されて、皆さんもご理解いただいて、地域の皆さんも安心される一つになってくるのかなと思っています。引き続き中区は他の区と、戸塚と青葉にもありますけど、災害協定を結んでいく中で、中区ほどニュースソースを出せるところはないので、引き続き防災、犯罪含めて連携を深めていただければなど思っております。

この予算額のところですけど、決算が予算の半分くらいになっているのは、差額の部分はどういうことなんですか。

金子地域振興課長：予算200万円のうち100万円は、（1）と（2）のヒアリング調査等予算で、残りの100万円は（3）の地域活動支援の予算です。本牧エリアのイベント、ハワイアンフェスタなどを、今回は金銭

的な面でも支援しようと考えていたのですが、文化観光局の補助金が確保できたため、100万円の予算を使わないで済んだという状況ですが、我々職員がイベントのお手伝いを行うなど、お金の面ではなく人的な形で支援を行いました。

伊波議員：例えば、文観の方の予算と区の予算、双方使ってできるという  
とらえ方でいいんですか。

金子地域振興課長：元々地域の予算を使って開催するものですが、足りない場合には区に支援してほしいとの事で、予算を確保しておりましたが、結果として、規模的に文観の予算と地域の予算でできてしまったようです。

伊波議員：分かりました。私からは以上です。

松本議員：今年度はいろいろコロナの影響で、継続的な事業が難しい、非常に大変な中だと思えるんですけども、例えば高齢者の老人会の活動でも町内会館を活用した給食、いろいろできないことが多いと思いますけれども、その辺というのは、今後どうやって、コロナ禍で厳しいということで中止ということで仕方がないということなのか、何か新たなメニューを今検討しているのか、どうなんでしょうか。

直井区長：老人クラブの事業等も、これまでは中止というのが多かったと思いますが、今徐々に少し再開をし始めており、もちろん個々の単位のクラブによって違うかとは思いますが、お話を伺ったところでは、ラジオ体操とかグラウンドゴルフのような屋外のもの等は再開しているようでございます。また、屋内のものも手芸とか、工作のようなものは再開をしているらしいのですが、カラオケとかダンスといったものは、今のところ中止ということのようです。バス旅行も始まったりしているようですが、どの事業もそうなのですけども、緊急事態宣言を受けてしばらく休止はしていても、やはり地域のつながりというようなものを考えていきますと、もちろん経済の方もそうですけど、これからはやはり、コロナとの共存ということで、3密を避けたり、うがい手洗いを徹底させながら、そういうことを意識しながら再開していく必要があるのではないかと考えております。

松本議員：そうですね。飲食店ですとか、事業所に関しては新たな形態というものをいろいろ横浜市の方でも補助を出しながらやっているみたいですけど、こういった市民活動についてはまだまだ指針が出していけ

てないのかなと。例えばどういう形で開催すれば大丈夫ですよとか、開催するにあたってはこういうところに留意してほしい、そして足りない部分についてはこういう補助、メニューを作りますよということで、やはり地域の活力をこういうコロナの中であっても、作り出していかねばいけないので、ぜひ地域活動の新たな生活様式というものを、ぜひこれから作り出していただければと思っております。

あと、もう一点気になっているのが、子どもの居場所づくりということで、実は学童保育ですけども、キッズとかは横浜市も一所懸命に力を入れてきているのだけれども、学童保育は横浜市全域的なもので、少しずつ支援の充実はさせていっていただいているのだけれども、いろいろ教室等預かる場所を借りるにしても経費が中区は他区よりもかかるという特殊事情もあるので、一概に横浜市だけの支援で充足しているのかどうなのか。中区内の学童保育をやっている事業者さんも厳しい状況にあるので、その中で横浜市独自で、中区独自で何か支援をするというようなメニューを、もう少し学童保育の事業者さんとどんな課題を抱えているのかとか、何かうまく意思疎通ができるようなことをぜひ考えていただければと思うんですけど、今現在そういった学童保育の事業者さんとの情報交換みたいなことはあるんですか。

直井区長：学童保育は補助金等も支出しているところもございまして、対話の機会等は持っております。いろいろコロナ禍の中で、ご苦労されているという話も伺っておりますし、家賃のことなども中区は中心地で厳しくてご苦労されているという状況も伺っていたり、コロナ禍の中で、消毒薬とかマスクとかの確保も、資金的なものは横浜市の補助金の制度も増えましたけれども、そもそもの品薄感の中で確保に苦労しているというお話を伺っています。そのような情報交換とか、ご要望を伺ったりということはしております。

松本議員：少しでも支援ができるようにメニューができるように、ぜひ前向きにご検討をお願いします。

直井区長：いろいろ対話を進めていきたいと思っております。

松本議員：地域の関わりを結び付けようということで、ICTを使って、ZOOMなんかを活用して、直接その場で皆さんが会わなくてもいろいろな情報交換ができるような動きが今あるんですけど、僕が思うのは、今コロナで人に会えないからその代替えということでITを使うこと

によって今まで以上にいいことがあるんだよ、いい情報が取れることがあるんだよということで何かモデルケースを作っておかないと。せっかくZOOMだとかいろいろ浸透していても、コロナが収束したらその経緯が全く無くなってしまったら、何のためにいろいろITを活用して新たな生活様式というものを模索していたのか全く意味が無くなっちゃうので、コロナが収束した後も効果を持つことができるような、そんなことをぜひ、今ピンチではなくてそれをチャンスととらえて、今後の在り方というものをぜひ考えていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

直井区長：今ちょうど補正予算が市民局から、自治会町内会に対してのICT講座というものが上程されているように思います。そういった講座の在り方、それにプラスしてお伝えするようなものがあれば、網羅して入れ込むとかそういった工夫で対応していければと思います。

このICTを推進することで、これまでも若い世代とかのグループ活動とかそういったものにつながる可能性もございますので、先生おっしゃるようにピンチをチャンスに変えるということ、私どもの方も考えていきたいと思っております。

松本議員：ICTを活用するということで、民間の事業者に委託をして指導してもらうようなものだけれど、話がプロの方からだと難しいので、高齢者の方にどこまで理解いただけるかというのは蓋を開けてみないと分からない。やはりそれで終わりじゃなくてそこで学んだ人が地域に戻って、これまでなかなかICTに関わりのなかった人たちに興味を持ってもらえるような活動を、そこでいろいろ講習を受けた方が裾野を広げてもらえるようなものを作っていかないと、ただICTの講座をやりましたよというだけでは、ちょっと無意味になってしまうようなところもある。その辺は、せっかく厳しい中で予算付けをしているので、有効に活用できるように。今だけ一過性のものでなく、長期的にそれを活用できるように、ぜひトライしていただければと思います。

直井区長：市民局等ともいろいろ相談しながら、有効な形で進めていきたいと思っております。

福島議員：学童の関係なんですけど、学童というのはたぶん高学年になってもずっと通い続ける方もいらっしゃるかもしれないけれども、キッズですと、伺うところでは高学年になると、家で自分で過ごすことができ

るようになるので、あまり行かなくなるというようなことで伺っています。じゃあそうした子どもたちが、中区の場合はどこにいるのかしらと気になるところで、地区センターなどに、中学生くらいの人が大勢いらっしゃいますけども、青少年の居場所というのが、中区はぴおシティの上にしかないんですね。ぴおシティは暫定ではなく決定的なところということなんですけれども、そこに野毛山から移動して、そこになっているんですが、そこで十分なのかというところもずっと問題意識として持っております。かと言って、どこか新しいところに作るというのも厳しい状況にあるんだと思うんですけど、政策として中学生くらいの人々の居場所ってあまり、東京の児童館と違って、学童でもないし、生徒さんの居場所って確保してこなかったのかな、と思っております。中区は新しいマンションができたりして、お子さんがどのくらいいらっしゃるのかも体感的によく分かってはいないんですけども、青少年の健全育成という観点から適切な居場所、支援がどういう状況で今あるのかな、ということを見たいというところですね。少子化といいますけれども、だからこそ大事な人たちなので、今の中区なりの居場所の在り方というところを、新たな時代に入っていきと思いますので、ご検討いただけたらな、という気持ちでいます。何かそれぐらいの世代の方たちへの支援というのはありますか。

直井区長：中学生を対象とした居場所というのは、中区では展開していないと思います。どちらかという部活動をしているとか、学習塾に通っているとか、という状況の把握なんですけども、中区はやはり繁華街等もございまして、健全育成ということを考えると、中学生で部活に入っていない子どもをどうするのか、少し考えていく必要があるのかなと思います。

金子地域振興課長：先生が言われたぴおシティにあるさくらリビングは、全市を対象とした青少年の居場所ですが、区単位でも整備していく計画になっています。こども青少年局の方でも予算や場所が確保できないので進んでいかない状況のようです。中区にも整備してもらえよう、局に伝えていきたいと思っております。

福島議員：何か拠点になるものが欲しいし、スポーツをすとかいうこともあるんですけど、どうしても関連性がありますから、もう少しセンター的なものが何かあっていろいろな方がここにさえ来ればということ

ろがあると良いのかなと。中区も狭いようで広いので、それぞれのエリアでいろいろなところで皆さん活動されていると思います。学校以外にもそういったところで活動されているとは思いますが、自分が年齢が上がってくるとそういう姿が見えないのかもしれませんが。皆さんどこにいるのかなと、高校生になってもやっぱり不安な気持ちを抱えながらどこに皆いるのかなと、ちょっと心配になる時がありますので、若い世代の皆さんにもうまく支援できるような機能が区の中にも明解にあるといいな、と思っています。

直井区長：今の中区内の中学生、高校生等の実態等についてももう少し詳しく把握させていただきたいと思います。

福島議員：大きな街で華やかで繁華街と思っているんですけども、やっぱり暮らしがあって、中学生高校生は違う視点でこの街を見ているんだろうなと思いますので、ぜひ機会があったら、居場所なんかを見回っていただけたらと思っています。

もう一つ違った視点で、歴史を生かしたまちづくりということで、主に中区がいろいろな歴史的建造物を使って、都市整備局で手続して認定された建物の保全について、ご意見をいただいたことがありました。大きな目抜き通りにあるものについては、かなり持ち主がしっかりやっていらっしゃるのですが、それに対して横浜市が一部支援するという制度の中で、要綱の中で管理をされていて。若干目立たないところにあるようなものについては、オーナーが負担をされるので、看板は付いているんだけど、逆にここは歴史的建造物に指定されているのか、という状況のものも散見されて。市としても悩みなんだろうけども、中区でも碑については、「歴史を碑もとく絵地図」でマップにしたりしていますけど、歴史を生かしたまちづくりということで、建物や遺構などについても、何か少し、予算でやることじゃないとは思いますが、機運を醸成して大事にしたり、応援したりというものを、少し強めていくと、豊かな方が大勢いらっしゃる中区なので、ふるさと納税でそういう項目もありますので、何かするのかな、と期待もしております。ぜひ中区ならではの大事なポイントを、もう1回掘り起こしていけたらという気持ちを持ちましたので、来年度になるとは思いますが、検討していただければと思います。

直井区長：ありがとうございます。

	<p>福島議員：子ども食堂の連携が進んだりしていると伺っているんですけど、子ども食堂の状況はどうなっているのでしょうか。実施できていらっしゃるのでしょうか。</p> <p>直井区長：しばらくお休みをとっていましたが、私も行きましたが、関内の桜通りのところも再開していますし、不老町のケアプラザでも今月は開催されると伺っています。</p>
<p>備 考</p>	<p>その他、中区における新型コロナウイルス対策について説明を行った。</p>